

平成10年8月7日(金)～9日(日) 三重県伊勢市・二見町/倉田山公園球場他

第33回全日本大学男子選手権大会

日本体育大学、劇的な逆転で2連覇達成!



▶伝統の力を見せつけ、2連覇を達成した日体

標記大会は、神宮御鎮座の町、日本人の「心のふるさと」伊勢市に、全国の精鋭32チームを迎えて開催された。

大会を主管する三重県協会は、本年が創立50周年の節目の年にあたる。記念すべき年に行われるこの大会を、是非でも成功させようと、役員はじめ大会関係者の皆さんが心を一つにして運営にあたり、天候までも味方につけ、盛会のうちに予定された日程を消化することができた。

大会は、昨年の覇者・日本体育大学の2連覇を、どの大学が阻むかに注目が集まった。しかし、日体は初戦の龍谷大学戦を5-2で快勝。続く慶応義塾大学戦を9-0、準々決勝の熊本学園大学戦を8-1と順調に勝ち進み、準決勝で一昨年の覇者・立命館大学と対戦した。

日体は3回、この回先頭の9番・森田の三・遊間安打を足掛かりに1点を先取。続く4回には3番・和佐野の3

点本塁打を含む6安打を集中、打者11人を送る猛攻で一挙6点を奪い、続く5回にも1点を加え、大量8点をリード。試合は決まったかに見えた。

しかし、ここから立命館が猛反撃。5回、この回から代わった岩見を攻め、2番・照本の中越本塁打を含む5安打を集中して3点を返し、続く6回にも5番・久保の満塁本塁打が飛び出し、1点差まで詰め寄った。

日体はここで先発・濱口が再出場。4連続三振を含むパーフェクトリリーフで1点を守りきり、決勝進出を決めた。

一方のパートは、どちらも危なげなく勝ち進んできた上位進出の常連校・沖縄国際大学と東海大学が準決勝で対戦した。

東海は初回、二死一塁から4番・森田の右越2点本塁打で先制。さらに2回には2番・大石の二塁打などで3点を追加した。

日ソ協記録委員

山崎 修

一方、沖縄国際は6回まで東海・加藤を打ちあぐんでいたが、土壇場の7回に猛反撃。6長短打を浴びせ、一挙5点を奪い、同点に追いついた。

延長に入った9回、東海は一死から7番・田中が三・遊間安打で出塁。二死一・二塁となった後、9番・加藤が中前安打を放つてサヨナラ。激闘に終止符を打った。

決勝戦は、東海と日体の対戦となり、東海が先手を取った。東海は4回、この回先頭の6番・河合が右越二塁打で出塁。次打者が手堅く送り、8番・田中が左中間へ本塁打を打ち、2点を先制した。さらに6回、2安打と敵失で1点を追加。東海が優勝をほぼ手中に収めたかに見えた。

しかし、その裏、日体が伝統の底力を見せる。この回先頭の3番・和佐野が四球で出塁。4番・原田、5番・川口の連続長短打などでまたたく間に同点に追いついた。

続く7回、9番・森田が敵失で出塁。次打者の犠打で二進、2番・田中の左前安打に敵失が絡み、一死二・三塁と一打サヨナラのチャンスを迎えた。こ

第33回全日本大学男子選手権大会

1	日本体育大学(東京)	5x	9
2	龍谷大学(京都)	2	8
3	慶応義塾大学(東京)	10x	0
4	四国大学(徳島)	1	8
5	愛知大学(愛知)	8x	4
6	同志社大学(京都)	3	1
7	関東学園大学(群馬)	3	5x
8	熊本学園大学(熊本)	7x	6
9	神戸学院大学(兵庫)	6	3
10	長野大学(長野)	0	1
11	第一経済大学(福岡)	2x	6x
12	中央大学(東京)	0	7
13	立命館大学(京都)	5x	7x
14	国際武道大学(千葉)	1	8x
15	徳島大学(徳島)	3x	0
16	常葉学園大学(静岡)	2	4x
17	大阪経済法科大学(大阪)	0	6
18	東海大学(神奈川)	3	1
19	広島経済大学(広島)	29x	0
20	明星大学(東京)	0	6x
21	福岡大学(福岡)	20	0
22	日本大学工学部(福島)	0	2
23	中京大学(愛知)	10x	1x
24	早稲田大学(東京)	1	3
25	山梨学院大学(山梨)	4	8
26	沖縄国際大学(沖縄)	7x	5
27	愛知学院大学(愛知)	13x	0
28	広島大学(広島)	5	5
29	国士舘大学(東京)	1	5
30	京都産業大学(京都)	6	3
31	福島大学(福島)	5	6
32	関西大学(大阪)	14	0

ここで3番・和佐野が二塁強襲安打を放ち、三塁走者を迎え入れ、劇的なサヨナラ勝ち。終盤の驚異的な粘りで逆転し、昨年に引き続き、堂々の2連覇を達成した。

今大会31試合の中には、29得点という新記録が生まれ、他にも20点差がつくというような試合が見られ、打撃部門では新記録・タイ記録が数多く生まれた。全体として、「打高投低」の大会であったといえるだろう。

そんな中、投手では、優勝の原動力となった日本体育大学の濱口辰也投手が防御率1・58と安定したピッチングを見せた。打球回数(26回%)を上回る奪三振数(27)は、特筆すべき数字といえるだろう。

また、準優勝に終わったとはいえ、

35回%を投げ、防御率2・16、奪三振31の力強い投球を見せた東海大学・加藤大樹投手も印象に残った。まだ1年生でこの活躍。今後の活躍が楽しみである。

打撃部門では、優勝した日本体育大学の和佐野弘一遊撃手、森田秀幸三塁手がともに5割7分1厘のハイアベレージを残した。また、2人には及ばないものの、5割6分3厘のアベレージを残し、投打に活躍した東海大学・加藤大樹投手の3名が特に印象深い。

○準決勝戦(10時~12時28分)

日本体育大学	0	0	1	6	1	0	0
立命館大学	0	0	0	0	3	4	0
	<hr/>						
	7	8					

○決勝戦(14時6分~15時54分)

東海大学	0	0	0	2	0	1	0
日本体育大学	0	0	0	0	0	3	1x
	<hr/>						
	4x	3					

(東) ●加藤一森
(日) ○濱口一杉田
▽困田中(東) 田河合(東) 川口(日)
(審) P村島 1村上 2金森 3北川
(記) 山下

○準決勝戦(10時5分~13時5分)

沖縄国際大学	0	0	0	0	0	5	0
東海大学	2	3	0	0	0	0	0
	<hr/>						
	6x	5					

(日) ○濱口・岩見・濱口一杉田
(立) ●古里一久保
▽困和佐野(日) 照本、久保(立)
田森田(日)
(審) P今泉 1瀬古 2田中 3長井
(記) 服部

いま、甦る栄光のブランド

虎印野球用品

(財)日本ソフトボール協会公認メーカー



Tiger

虎印野球用品は全国有名スポーツ店でご指名ください
'98 虎印野球用品のカタログご希望の方は、
美津和タイガーまで500円切手(郵送料)同封の上お申し込みください

GS-150 ¥15,000

美津和タイガー株式会社
590 大阪府堺市南旅籠町西2丁1-30
TEL 0722-33-3197
FAX 0722-23-5965